

さいがただより

National Hospital Organization Saigata Medical Center

発行 / 独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター 院長 下村登規夫 平成30年8月



院長室から

国立病院機構さいがた医療センター 院長 下村 登規夫

お久しぶりです。院長の、下村登規夫です。4月に春の足音を聞き始めたかと思ったら、もう真夏になっているという。「光陰矢のごとし」とは、よく言ったものです。わたくしも、この地に赴任してから、15年になろうとしています。今年も、思わぬ災害がおこる予感のする年でしたが、先般の未曾有の水害に遭われた方々には、謹んでお見舞いを申し上げます。先ほど、この地に赴任してから15年に入ると申し上げましたが、その間にはいろいろなことがありました。一時的にはありますが、医師不足を全く感じなかった期間がありました。ところが、少なくともここ5年間は、医師不足、特に精神科医師の不足に苦しんでまいりました。これでは、メディカルシティ構想どころではありません。昨年度は特に国立精神医療施設長協議会をはじめとして、国立病院機構全病院、国立精神神経医療研究センターにも応援をいただき、何とか病院の体裁を保っていたという状態でした。

今年度は、村上優院長特任補佐を中心として、4名の精神科医師が、当院を引っ張ることで、さいがた医療センターは、以前の活気を取り戻しつつあります。さらに、驚くべきことは、精神科が活気づくことで、脳神経内科・内科・整形外科もすべて活気が出てきたことです。この時期の脳神経内科の病床利用率は80%未満のことが多かったのですが、今年は、90%を超えて入院患者さんがあります。

上越市は、恒久的医師確保が難しいといわれています。これは、実は上越市に限ったことではないのです。もちろん来たくなるような病院を目指さなければならないことは、わかっています。若い先生をはじめとして、「ここでやる医療は、他の医療機関ではできない。」といわれるような医療センターを作ろうと考えています。そのための診断能力の充実と実際の情報発信を行う予定です。幸いにも、今年度着任した新しい内科医長は、「発表と論文を書いて当院を有名にする。」という旗印を掲げており、新しく情報発信が始まると思います。

精神科の充実を図りつつ、脳神経内科の情報発信も行い、神経難病医療の拠点は、ここしかないといわれるところまで、持っていきたいと考えています。すでに、患者さんは日本全国から来ておられます。それに加えて、さらに神経難病医療を充実させることで、当院でしか学べない難病医療の神髄を提供できる医療機関を目指す所存です。そして、断らない病院（外科がないので制約はありますが）としても、充実を図りたいと考えています。どうぞ、皆様の熱い声援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

上越で見る風景



院長特任補佐 村上 優

赴任をした4月初旬、冬の景色を残している高田平野を散歩していた時に眼前にそそり立つ白い壁を見た時の驚きは新鮮でした。畏怖と表現するのが意を得ているでしょう、妙高山・火打山・焼山の壁でした。少ししてはね馬と称する残雪の模様を経て、今は焼山の高原に雪渓を残す程度になっています。山開きを前にして妙高登山を企てましたが、出発に手間取り2000メートルあたりの天狗堂で引き返しましたが、2500メートルの頂上にも手が届くと安心しました。さいがた医療センターに赴任するときに、心に決めたことはこの病院の再建に力を注ぐこと、妙高山周辺の山々を楽しむことでした。

久里浜医療センターからの佐久間医師と私の2名、長年支えてこられた西澤先生や肥前精神医療センターからの応援医師も含め精神科医は4名体制になりました。

3年以上、新患受け入れをしていなかったもので、診療を再開しても利用者は少ないのではと予測していましたが、措置入院などのハードケース、適応障害などのソフトケース、内科医との協働ができる身体合併症と広い幅の利用者がこられました。その昔、健全に運営されていたことを記憶していただいていたのだと感謝しています。赴任後に精神科再建ワーキンググループが立ち上がり、6月末には基本方針を立てました。一般精神科医療は①小規模・多機能・高規格医療という選択、②アウトリーチを進める、③急性期医療を創設、④専門医療を創設というものです。訪問活動はACT（包括的地域支援）にレベルを引き上げ、急性期はハード、ソフトケースをともに扱える医療チームを作り、治療抵抗性統合失調症治療、とりわけクロザピンの導入を加速させ、依存や発達障害にも対応できる精神科専門医療のメニューをそろえてと期待が膨らみます。また政策医療の医療観察法医療は我が国の司法精神医学分野をフロントラインで担えるレベルにしていきたいと思えます。

私は国立病院機構病院（肥前精神医療センター、花巻病院、琉球病院、榊原病院）で急性期、依存医療、医療観察法、司法精神医学、クロザピンの医療、m ECT、思春期医療、強度行動障害の療育など臨床に密着して44年を過ごしました。その経験を基礎にして利用者も関係者も集まっただけの医療の基礎を創ることを夢見ています。一気に頂上には届かなかった妙高登山のように、繰り返しチャレンジすることで実現したいと思っています。

クロザピン導入について



薬剤科長 伊東 秀幸

クロザピン（商品名：クロザリル）とは、今まで他の抗精神病薬による治療を受けてきたにもかかわらず、症状が十分に良くならなくなった治療抵抗性統合失調症に対して効果があると認められた薬剤です。

クロザピンは、世界 100 か国以上で使用されており、日本では 2009 年から導入され、すでにのべ 5000 人以上の方に使用されています。

クロザピンは治療抵抗性統合失調症に有効であることが示された唯一の薬剤ですが、重篤な副作用があるなどして使用に関して制約のある薬です。

クロザピンを処方できるのはこの薬の講習を受講・履修して十分な知識を修得し審査を通過した医師だけであり、また講習を受講し適正に使用するよう知識を修得した血液内科医師、コーディネート業務担当者、管理薬剤師も安全に使用するための仕組みに協力します。

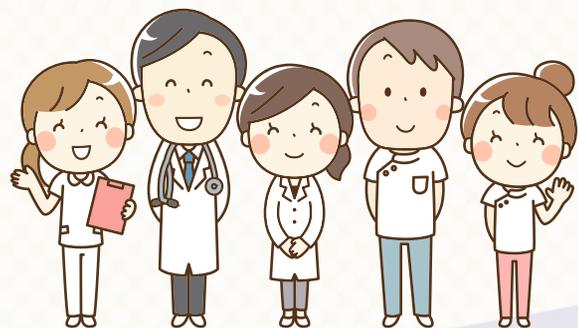
当院精神科部門は多職種に渡るワーキンググループを立ち上げ院内の体制を整えました。クロザピンの導入について準備し、2018 年 6 月に使用するための施設要件を満たすことができました。

服用についてクロザピンは他の抗精神病薬との併用が禁忌となっていますので抗精神病薬の服用はクロザピンのみの単剤となり服用する際の負担が少なくなります。

また、副作用の管理については多職種で連携し速やかに対処できる体制を整えました。

2018 年 7 月より当院精神科 2 病棟に専任の薬剤師を配置し、入院患者さんへのお薬の説明や入院前に服用していたお薬と入院後に処方されたお薬との飲み合わせに問題ないかを確認しています。さらに、お薬の効果が十分に出ているか、副作用が出ていないか等を確認し、お薬の安全使用に努めています。

当院が治療を受ける人にとって必要とされる病院になるようスタッフ一同取り組んで参ります。



外来診療担当表

平成30年8月1日

診療科名	曜日 (区分)	月	火	水	木	金
精神科	初診・再診	佐久間 寛之	交代制	交代制	武内 廣盛	曾根 四郎
		村上 優	村上 優	佐久間 寛之	交代制	
		西澤 芳子	西澤 芳子	西澤 芳子	西澤 芳子	西澤 芳子
脳神経内科	初診・再診	下村 登規夫	石黒 敬信 下村 登規夫	下村 登規夫	古澤 英明	下村 登規夫
内科	初診・再診					榛澤 和彦 (循環器科)
放射線科 (画像診断)	初診・再診	越原 浩	越原 浩	越原 浩	越原 浩	越原 浩
小児科	初診・再診			川崎 砂里 (第1週除く)		
整形外科	初診・再診	山本 正洋 (午後)		労災病院医師		山本 正洋 (午後)

専門 外来 (予約制)	脳ドック			○	○	
	頭痛外来	○	○	○		
	睡眠時無呼吸外来 ※診察時間14時～16時	○	○	○		
	慢性疲労外来 ※診察時間14時～16時	○	○	○		

- 1 受付時間 8時30分～11時00分（予約者を除く）
- 2 休診日 土・日曜日、祝祭日、年末年始
- 3 各科診察は予約制です。詳しくは外来窓口へお問い合わせください。
- 4 予約時間・予約時間の変更は平日の12時00分～15時00分の間に電話で受け付けています。

★予約の問い合わせ先：TEL 025-534-3131（病院代表）



さいがた医療センターキャラクター
さいがタン

独立行政法人国立病院機構
さいがた医療センター
〒949-3193
新潟県上越市大潟区犀潟468-1
TEL:025-534-3131 FAX:025-534-4824
<http://www.saigata-nh.go.jp/>